



## 博多工業高校×NPO 法人いとなみ×福岡市 「伐る・つくる・学ぶ」自分で伐った木を卒業制作に



市域面積の3分の1を森林が占める福岡市では、森林の持つ公益的機能をより高めるとともに、花粉発生源対策やカーボンニュートラルにも貢献するため、約6割を占める人工林の循環利用「伐って、使って、植えて、育てる」を推進しています。

このたび、福岡市は、福岡市立博多工業高校およびNPO法人いとなみとの共働企画として、**生徒が、自ら人工林を伐採（間伐）し、森林や林業の果たす役割を学ぶとともに、卒業制作品として、その市産材を活用した木製品を造る取組みを実施します。**制作にあたっては、社会に役立つものとなるよう、生徒自ら、様々な施設等に訪問し、課題（困っていること）に向き合い、何が必要かを考え、製作する木製品を決定します。

今回、その取組みの第1弾として、生徒が下記の通り、皮むき間伐を実施します。ぜひ取材いただき、本取組みや人工林の循環利用の必要性（林業の役割）などについて、広報いただきますようご協力をよろしくお願いいたします。



皮むき間伐体験



間伐材を活用した木製品

### 記

- 日時 令和8年5月14日（木） **11:10~15:35**
- 内容 森林の役割等の説明（11:10~12:00） 場所：博多工業高校  
皮むき間伐体験（12:45~15:35） 場所：東油山市有林（博多工業高校そば）
- 講師 NPO法人いとなみ ふじいよしひろ 藤井芳広代表）
- 今後の計画 令和8年度（1年生時）：皮むき間伐  
令和9年度（2年生時）：伐採体験、製材見学  
令和10年度（3年生時）：卒業制作、施設への寄贈
- 注意事項 駐車場の確保等が必要となりますので、**当日、取材・撮影をされる方は、5月12日（火）の17時まで森づくり推進課までご連絡ください。**

#### 【問合せ先】

農林水産局森づくり推進課 電話：092-711-4845 担当：雪野、中村

### 間伐とは？／皮むき間伐とは？

- 間伐とは、森林の成長に応じて樹木の一部を伐採し、過密となった林内密度を調整する作業です。  
間伐を行うと、光が地表に届くようになり、下層植生の発達が促進され森林の持つ公益的機能が増進します。  
また、残った樹木が健全に成長することにより木材の価値も高まります。
- 皮むき間伐とは、竹べらを使って樹皮を剥がし、木を枯らす間伐方法です。  
立木のまま1年以上乾燥させることで、人力で運べるほど木材が軽量化され、伐採・搬出が容易になります。



### 木を使うことは、森林の持つ働きの発揮とつながっています

- 現在、戦後に造林された多くの人工林が本格的な利用期を迎えており、資源量は年々増加していますが、木材の利用は十分に進んでいないのが現状です。木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林のサイクルの一部。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ多くの働きを発揮させるためにも、木材を使って森を育てることは大切なことです。人工林を伐って使うとともに、植えて育てることを進めていくことで、未来につながる森林の持続的なサイクルが保たれます。
- 福岡市では、花粉発生源対策としてスギ・ヒノキ人工林を伐採し、花粉症対策品種へ植替えるとともに、その市産材を公共施設等に利用しています。

